

令和7年度全国学力・学習状況調査における 岡崎市立小中学校児童生徒の結果について

岡崎市教育委員会

1 調査分析概要（全国の平均正答率との比較）

（1）全体の様子

小学校においては、算数は「よくできている」、国語・理科は「できている」状況にある。「知識・技能」に関する問題については、国語・算数・理科ともに「できている」状況にあり、「思考・判断・表現」に関する問題については算数が「たいへんよくできている」、国語・理科が「できている」状況である。

中学校においては、数学・理科が「たいへんよくできている」、国語は「できている」状況にある。「知識・技能」に関する問題については、数学・理科が「たいへんよくできている」、国語は「できている」状況であり、「思考・判断・表現」に関する問題については、算数・理科が「たいへんよくできている」、国語が「できている」状況にある。 ※中学校理科は、本市に出題された公開問題の結果から分析している。

（2）小中学校別各教科に関する問題の様子

《小学校6年生》

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	<u>できている</u> ・ 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することがたいへんよくできている。 ・ 事実と感想、意見などとの関係について叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することがよくできている。 ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける力がやや弱い。 ・ 書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考える力がやや弱い。
算数	<u>よくできている</u> ・ 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することがたいへんよくできている。 ・ 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することがたいへんよくできている。 ・ 角の大きさについての理解がやや弱い。 ・ 数直線上にて1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉える力が弱い。
理科	<u>できている</u> ・ 水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解することがたいへんよくできている。 ・ 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現する力が優れている。 ・ 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が弱い。 ・ レタスの種子の発芽条件について差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現する力が弱い。
学習状況	・ 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童は、そうでない児童に比べて正答率が高い。睡眠時間を十分に確保し、規則正しい生活を送ることができている児童が、高い正答率を得ている。 ・ 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した児童は、「そう思わない」と回答した児童に比べ、正答率が高い傾向にある。友達と意見を聞かせたり、自分の考えを主張したりすることができる児童が、高い正答率を得ている。
生活状況	・ 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童の割合は、全国平均を大きく上回り、「人が困っている時は進んで助けている」と回答した児童の割合も、全国平均を上回っている。 ・ 「分からないことやくわしく知りたいことなどがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している」と回答した児童の割合は、全国平均をやや下回っている。

《中学校 3 年生》

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	<u>できている</u> ・自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して話の構成を工夫する力がたいへん優れている。 ・書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることがよくできている。 ・資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する力がやや弱い。 ・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることが弱い。
数学	<u>たいへんよくできている</u> ・数量について、文字を用いた式で表すことがたいへんよくできている。 ・事象に対して、グラフから必要な情報を読み取る力がたいへん優れている。 ・必ず起こる事柄の確率についてたいへんよく理解できている。 ・式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することがやや弱い。
理科	<u>たいへんよくできている</u> ※公開問題（10問） ・電熱線で水を温める学習場面における、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能がたいへん優れている。 ・探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りについて表現することがたいへんよくできている。 ・小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付け、地層を構成する粒の大きさと隙間の大きさに着目して分析し、解釈する力がやや弱い。 ※非公開問題（16問） ・I R T スコア集計値において、全国よりもたいへん高い値を示していることから、全体としてどの問題に対しても適切に回答できている。
学習状況	・「自分にはよいところがある」「先生はよいところを認めてくれている」など、自己肯定感が高く、承認欲求が満たされている生徒の正答率が高い傾向にある。 ・「1、2年生のときに受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器をどの程度使用したか」の質問に対して、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した生徒が、全国平均を大きく上回る結果となった。
生活状況	・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えた生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。 ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と答えた生徒の割合は全国平均を大きく下回り、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」についても下回っている。

2 岡崎市教育委員会の指導改善等の取組

- (1) 国語、算数・数学、理科における岡崎市の児童生徒の学力と、学習環境と学力との相関関係を詳細に分析し、学校での授業や家庭での生活習慣等の改善すべき内容を把握します。
- (2) (1) の分析結果を受け、その授業改善案等を教育委員会が各学校へ伝え、必要に応じて担当指導主事等が学校訪問を行い、改善状況を確認したり、指導したりします。
- (3) 各学校で行っている「教育診断アンケート（学校評価）」を利用して、学校や教員が自己評価を行い、日々の授業の成果と課題を明らかにし、新たな授業改善の具体的な対策を立て、取り組むように指示します。
- (4) 教育委員会と学校は、家庭や地域と連携しながら、子供たちの生活習慣や学習環境が学力に反映することを周知し、改善を図る取組を行い、総合的な学力の向上に努めていきます。

3 留意点

- (1) この調査は、子供たちの学習状況の改善を図るために参考とするものです。
- (2) この調査で測定した学力や学習状況は、特定の一部分です。
- (3) 学校では、成果と課題を把握し、授業改善に努めます。
- (4) 家庭では、得意なこと・不得意なことを知り、また生活習慣の充実を図るなど、児童生徒が学習に意欲をもって取り組める励ましや環境づくりをお願いします。